

イメージしてください。

この子が大きくなって、この写真を見て、何を感じるでしょうか。
日記のように撮り、メモを書き、ファイルしつづけた
父親のその気持ち、その「まなざし」に。



👉 40才を目前にしてこどもを授かった、横浜市在住の小林さんのファイルから。ごく一部を抜粋しました。撮ってすぐ確かめられるインスタントカメラは日記のようなもの、と小林さんは言います。父親となった喜びが、ことばでは照れくさそうに、でも画面には溢れんばかりに綴られています。

👉 いいものを見せていただきました。撮影した現在がその場で定着するインスタントカメラには、こんなに幸福な使い方もあるのですね。父親の日々の喜びが伝わってきます。しかし、この写真の「幸福」はそれだけではないと思います。この愛らしい赤ちゃんが、やがて年頃のお嬢さんになるにつれて、10年後には「たくさんの私の写真」を喜ぶでしょう。そして20年後には、毎日飽きることなく撮り続け、ことばを添えた父親のその気持ちについて、何かを思うようになるに違いありません。そう考えると、ますますいいなあ、この写真は、この愛の写真日記に使われているのは、フジフィルムの「チェキ」です。名刺とほぼ同じカードサイズの写真ですので、ファイルにも手頃です。そしていちばん大切なこと。この幸福な思い出が、生涯色褪せないこと。理央ちゃんが大人になっても、パパがこの写真に託した想いを、ずっとずっと、いつまでも鮮やかに伝えます。

👉 国境やことばを越えたコミュニケーション。それが、image。私たちは過去に例のない質と量と速度の「imageの世紀」を、すでに迎えています。光学、化学、電子工学から認知科学の領域まで。フジフィルムは「imageを科学する」世界的フロンティアとして、これからも進みます。



VOL.
インスタントカメラ
チェキ
FUJIFILM
I&I-Imaging & Information
www.fujifilm.co.jp

image する会社。FUJIFILM